



2024年 8 ～ 9 月の行事予定

※下記の予定は7月31日時点の情報であり、追加・変更の場合はご了承ください。



コミセン(上段)・うるおいの郷(下段)

日	月	火	水	木	金	土
11山の日 	12振替休日	13古紙回収 	14	15	16 	17 ・かみつ里山食堂準備
18 ・囲碁大会 ・かみつ里山食堂 ・中央子ども会	19	20古紙回収 ・つばきの会 	21	22文書配達 ・四つ葉会	23 ・ふるさと祭り準備 ・あみものサークル	24 ・上津ふるさと祭り
25 ・ふるさと祭り片付け	26	27古紙回収 	28 ・夏休み子ども食堂準備 ・大谷町内出前講座(大谷集会所)	29 ・上津小始業式 ・夏休み子ども食堂 ・三田谷町内出前講座(三田谷集会所)	30	31
9/1 ・上津小奉仕作業 ・水止め弘法草刈り(土木委員会)	2 ・みちくさ教室	3古紙回収 ・つばきの会 	4 ・スポ協	5 ・ミニデイサービス	6 ・建築組合	7 ・かみつ里山食堂準備
8 ・かみつ里山食堂	9	10古紙回収 	11 ・肺がん検診	12文書配達 ・四つ葉会	13	14
		・つくしんぼ教室		・大正琴		

かみつ里山食堂便り



7月14日にかみつ里山食堂を開催しました。

7月14日 かみつ里山食堂メニュー

- ◎牛すじカレー 夏野菜添え
- ◎スパニッシュオムレツ
- ◎パンプキンサラダ
- ◎キウイ(ゴールド・グリーン)
- ◎らっきょう漬け
- ◎浅漬け(きゅうり・なす)



牛すじ(和牛)を頂いたので、カレーにしました。立派な夏野菜がたくさん来たので、カレーの上にピーマン、なす、ズッキーニ、かぼちゃをトッピング。カレーの定番、らっきょう漬けも提供してもらい、浅漬けは残った野菜で。上津産の卵に夏野菜をたっぷり入れてオープンでスパニッシュオムレツに。かぼちゃが主役のパンプキンサラダ、デザートは2種のキウイと今回も盛りだくさんのメニューとなりました。



里山食堂は、上津地区の住民以外に上津出身の方、親戚の方、知人友人、たまたま寄った方など誰でもおいで下さい。

今回、懐かしい出会いがありました。嬉しい驚きです。里山食堂で思わぬ人と出会えるかもしれません。食堂で懐かしい縁、新しい縁を結んで下さい。

今月のレシピ ◎ソーダ寒天(15cm角の容器)

材料
粉寒天4g、砂糖40g、水300ml、かき氷シロップ(メロン)大さじ2、サイダー300ml(常温)、温度計



作り方

- ①鍋に粉寒天、砂糖、水を入れ沸騰させる。
- ②①を2分くらい沸騰させたら、シロップを入れ、水で濡らしておいた容器に入れる。
- ③②が50度くらいになったら、サイダーを注ぎゆっくり全体を混ぜる。
- ④粗熱がとれたら冷蔵庫でしっかり固める。

※※温度計で温度を測って作った方が確実です
《食育指導士 遠藤 訓子》



～斐伊川が育んだ 上津ロマン～

上津コミュニティセンター報 2024年 8 月



第305号

発行：上津コミュニティセンター

所在地：出雲市上島町1031

電話：0853-48-0301

FAX：0853-48-0361



上津の人口
(令和6年6月末現在)
世帯数 393戸
人口 1,066人
男性 552人
女性 514人

このQRコードをスマホのカメラで読み込むと上津コミセンのHPへ！ぜひお試しください。

かみつ

7月12日：奥大山ブナの森工場視察研修

5年ぶりに開催された視察研修に訪れた先は、サントリー天然水を作っている「奥大山ブナの森工場」。大型バスに乗り込んだ参加者37名は、久しぶりのお出掛けに終始和やかなムード。

工場がある奥大山は広大なブナの森が生い茂る場所。大きなジオラマにプロジェクションマッピングを投影し、どのようにして水が生まれるかを学んだ後、製造ラインを解説付で見学～試飲まで約60分、楽しく視察することができました。



エントランスにある巨大な奥大山エリアのパネル前で記念撮影する参加者。ハイポーズ！

参加者は「ペットボトルから一貫して工場で生産されていて驚いた」「美味しい水を育む森の土は、ふかふかであることが大事だと実験で分かった」といった視察の感想や、「久しぶりにバスに乗って出掛けられて楽しかった」「来年もまた参加したい。だから皆元気でいようね」など、色々なご意見をいただきました。

ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。今後もより良い企画を考えていきます。また、視察先のリクエストもお待ちしていますので、是非来年もご参加いただきますようお願いいたします。



製造はまず、ペットボトルの成型から始まります。



ペットボトルの原型。これを膨らませて作ります。



それにしても工場内にほとんど人の姿を見ない…眼下に広がるライン。ラベル張りから印字～箱詰めまで、次々にサントリー天然水が流れていきます。

わたしの水墨画



い～香りです

曾田 幸浩



乱舞し、また休憩

舞い上がるチョウ



朝から猛暑の7月末、それでも定時巡視のため大谷カエルランドに到着した時、目の前にひらひらフワフワとたくさんのチョウが舞い上がりました。「うわっ」、紫の吹雪が舞っているようでした。覚えているでしょうか、昭和56年第32回NHK紅白歌合戦。大トリの北島三郎が熱唱する「風雪ながれ旅」、歌唱中に空中から紙吹雪がこれでもかと舞い降りサブちゃんの姿が見えなくなり最後には鼻の穴に紙吹雪がはまり込んだあの事件（興味のある方はパソコン検索してください）。目の前でたくさんのチョウの乱舞を見てすぐその画像が思い浮かんだほどの数でした。正体は「ルリシジミ」、上津ではよくいるチョウで小さくて薄紫（表側、裏は白っぽい）色でとてもキュートです。幼虫はフジの葉を食べるので紫色になるのでしょうか？チョウの乱舞に一瞬息を飲み込み、心も身体もスッキリです。

こんにちは！上津幼稚園です



きく組新田川の遊びに上津小学校一年生、ひまわり学級のお兄さん達を招待したよ！



新田川をザリガニが泳いだよ！

新田川でのワクワク体験から、「きく組に新田川を作って生き物を泳がせたい！」と遊びに発展しました。保育室から廊下まで続く新田川を園児3人で作るのは大変でしたが、力を合わせ、知恵を出し合い、作りあげました。川やカエルランドで触れたザリガニ、コオイムシ、オタマジャクシ等をそれぞれが作って泳がせました。一学期楽しんだ遊びに上津小学校一年生、ひまわり学級のお兄さん達を招待し、一緒に遊びました。小学生が楽しんでくれて、子供達は満足感でいっぱいでした。

ご寄付の御礼

○一般寄付として

【上津コミュニティセンターへ】

延畑町内 畑 時子様

御芳志

ありがとうございました

出雲市教育委員会より感謝状授与
おめでとうございます！
上津小 地域講師 畑 時子 さん



感謝状を授与されました。

畑時子さんは「メイキングクラブ」を担当。牛乳パックを使った作品作りや押し花、毛糸で指編みなど身近にある素材で、ものづくりを教えてください

これからも、ささやかでも学校や子ども達の支援を続けたいと考えています。



上津小学校で25年の長きにわたりクラブ活動講師をつとめられた畑時子さん（延畑）。その功績からこの度、出雲市教育委員会より

感謝状を授与されました。畑時子さんは「メイキングクラブ」を担当。牛乳パックを使った作品作りや押し花、毛糸で指編みなど身近にある素材で、ものづくりを教えてください

小学校と地区とのパイプ役として、なくてはならない存在である畑時子さん。いつまでもお元気で、これからも上津っ子達を見守り続けてください。

上津ウォーキングスタンプカード 現在2,160枚

スタンプがたまったら、コミセンへ持っていきよう！

ほのぼの上津



双子のトマト



雨上がり、こんなところにキノコ...



古代ハスが咲きました

ペットボトルキャップとプルタブの回収始めました！

環境保全連合会上津支部では、コミセン入口外側にペットボトルキャップとプルタブ回収ボックスを設置し、たまったペットボトルキャップ2袋分を山陰中央新報社の回収運動に届けました。今後も色んな団体に寄付していきたいと思いますので、ご協力をお願いします。

回収ボックスは、365日24時間投函可能です！



なお、ペットボトルキャップ以外や汚れたものはリサイクルできませんのでお気をつけください。

消防だより

6月9日、出雲西消防署本部で機関員教養訓練があり、分団長・副分団長と団員6名が参加しました。消防本署職員指導の下、ポンプ操作の基礎知識及び実施



訓練を行いました。

RELAY ヴル（受け継ぐ）・TALK トーク（お話）～No.15～

稲村昭二さん（西谷町内）にお話を伺いました。

西谷町内には昔から棚田が数十枚あり、かつては小さな農業機械で耕作されていましたが、圃場拡大の整備がされてトラクターが使えるようになりました。

一番高い場所にある棚田には、三刀屋町側の山奥から渓流水を導く長い用水路（約1km以上）が昔から設けられていて、棚田の貴重な水源となっています。

この用水路は、先代たちの開拓によって建設され、除草や清掃作業等の苦労を積み重ね、長く守り継がれてきた貴重な資産です。その一部は配管にする等の工夫がされて今でも大切に使用されていますので、未来に引継いでいかねばなりません。

平成30年7月豪雨で最上部の棚田法面が崩壊し、その棚田では稲作が出来ませんでしたが、今年復旧工事が完了し（写真参照）、来年度からやっと作付けが可能となりました。



棚田の米作りで一番大変な作業は草刈りですが、イノシシ被害や病害虫から稲を守る為には必須です。また、今では耕作放棄地が増え、かつての様な谷全体が棚田という風景は見られなくなりました。この耕作放棄地を何とか活用出来ないものか悩んでいるところです。

現状は厳しいですが、それでも「棚田のお米はおいしい」との声を聴くと嬉しいですし、自給自足でそのお米でおいしいご飯を食べられることに感謝し、棚田での米作りをやっているうちは続けたいと考えています。



《上津のスタジイ》